

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799100108		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 木川東 (1F)		
所在地	大阪府大阪市木川東1-5-13		
自己評価作成日	平成24年7月18日	評価結果市町村受理日	平成24年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2799100108&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さいながらも、家庭菜園があり、入居者様と共に水やり・収穫をしています。笑顔あふれる明るい施設です。利用者様が自分らしい生活を送って頂けるサービスを提供できる様心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは常に笑顔で接する事を大切に支援されています。笑顔を絶やさず日々を過ごす事で、入居者への安心感にも繋がっています。職員は入居者一人ひとりの表情や訴えを見逃さない事を心がけており、状態の変化には速やかに適切な対応がなされています。ホーム内は掃除が行き届き清潔に保たれており、職員が常に笑顔で来訪者を迎え入りやすい雰囲気づくりに努めています。家族の訪問や運営推進会議の参加も多くあり、様々な要望や意見を聞くことが出来、得られた事柄については丁寧に対応し返答している結果、家族との信頼関係が築かれています。新設でありながら地域とも良好な関係が築かれており、直接ホームに来訪して行事を知らせてもらい、盆踊り会や敬老会等に参加しています。地域の防災訓練にも入居者と参加し、地域の一員としての役割も果たしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく暮らしていける事を目指し実践しています。	ホームは笑顔をキーワードにケアしています。常に笑顔を決やさずに接する事で、ホーム内がおだやかな雰囲気になり入居者の安心感に繋がっています。ホーム内だけでなく地域に出ても笑顔で対応しています。開設時に作った日々のスローガンは業務する上での職員間の心得を明記しています。	笑顔での支援を基本にされていますので、それを踏まえて明確な文章に表しホームの理念を作られてはいいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶。 町内会の行事に参加させて頂いている。 地域のボランティアの方に来て頂いている。	地域の防災訓練には利用者と一緒に参加しています。近隣の方々とは日々笑顔で挨拶を交わし交流を図っています。自治会に参加し、近隣の方が直接ホームまで来て地域行事を知らせてくれる事もあり、良好な関係が構築されています。また、日本舞踊等のボランティアにも来訪してもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と連携し、入居者様と共に行事やイベントに参加させて頂き、身近に感じて頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施し、行事や研修の報告、今後の予定を報告している。 地域行事へのお誘いを受けたり、アドバイスを受けたりしている。	入居者や家族、自治会副会長、地域包括支援センター職員等の参加で2ヶ月に1度運営推進会議は行われており、ホームの状況や行事、研修の報告を資料を配付して説明し、参加者からは意見や要望をもらっています。得られた意見には速やかに対応し運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったこと、解らないことは、その都度相談させて頂いています。	制度上の疑問点があれば質問や相談しアドバイスをもらっています。グループホーム連絡会にも出席し、担当者からの情報を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受け、皆で一緒に考え、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束の研修を受講し、身体面や精神面での弊害や言葉による拘束についての理解を深めています。現在は、外出傾向にある入居者がおられ、ユニット、玄関とも施錠しています。家族からは転倒の予防するためベッド柵の使用の希望を聞いていますが、弊害や代替案について説明し理解を得ています。	職員配置の多い時間帯や事務所に職員がいる時間帯等を考慮して、少しの時間から開錠を検討されてはいいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修を受け、虐待防止に努めています。		

グループホーム たのしい家木川東（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もいらっしゃるため、研修等開き、皆で学んでいきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、解らないことは、再度説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、意見・要望等を伺っております。 また、電話や訪問時には、家族様とお話をさせて頂くようにしています。	家族の来訪時に直接意見を聞いており、得られた要望は職員間で検討して返答しています。運営推進会議にも入居者や家族の参加が多く、意見をもらっています。家族からは面会時や電話でも様々な意見やアドバイスをもらっており、その都度丁寧に対応し、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング・フロアミーティング等で皆意見を言い、共有・改善に取り組んでいます。	月1回の職員会議やユニット会議では、参加者全員に発言してもらい、様々な視点からの意見交換がなされています。リーダーが個別に意見を聞いて会議の議題に上げることもあります。年1回の人事考課を兼ねた管理者による面談では、職員が法人のチェックシートに基づき自己評価を行った上で個別の意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度人事考課があり、個々の実績を評価し給与に反映するようになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には、本社での研修があり、その研修を受けて業務に従事します。 また、定期的に内部研修・管理者の為の研修等が本社で実施されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に積極的に参加し、他事業所との交流を図っている。 その中で、参考となる部分を取り入れ、サービスの質の向上につながる様心掛けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を重視し、本人の性格等を把握。 笑顔を決やさず優しく接する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での様子等、細かく伝え、不安な事、希望・要望があれば言うて頂く。 また、日ごろの会話の中から、汲み取る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の状況を見極め対応し、ここに居たいと思って頂ける様心掛ける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しながら、コミュニケーションを大切にし、お一人お一人と良い関係が保てるように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、常日頃より状態を伝え、共に支えているという関係作りを築ける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方が来られた時などは、楽しく気持ちよく過ごして頂ける様心掛けている。	以前に住んでいた家の近所の方がホームに 来訪され、リビングや居室でお茶を飲みながら話をしたり、ユニットでのレクリエーションを一緒に楽しんだりされています。現在のところ馴染みの場所への外出には至っていない状況です。	個別外出の日を設けるなどして、自宅や馴染みの商店、飲食店等の、入居者の行きたい場所へ出かけられるような機会作りを検討されてはいかがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などにも気を配り、職員が間に入ったり、見守るなどし、良い関係作りができる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、相談等持ちかけられたら、柔軟な対応をさせて頂きたいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活や思いなどを出来るだけ把握し、出来る限り本人の意向に添える様心掛けています。	初回面接時に聞いた情報を基に、日常で把握した利用者の希望や思いを職員間で共有しています。困難な場合は家族から聞いたり、様々な場面で入居者の様子や表情を観察して、本人の立場に立って考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族から情報を得て、入居されてから、本人との会話の中で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時、利用者を見ながら記録を見る。 朝のバイタル測定時、一人づつ声掛けをして、様子を伺う。 記録の記入・申し送り、日々の話し合いを通し把握できる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング等で、話し合った事、家族の意見を聞き、計画作成が介護計画を作成している。	法人のアセスメントシートで情報を収集しニーズを抽出し、入居者や家族からの意見も加えた介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い、職員の意見も踏まえて3ヶ月に一度の見直しに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他の職員にもわかる様に、介護記録等に残し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士の連携に基づき、様々な事に対応し、家族とも相談し、本人にとってより良い支援ができる様心掛けています。		

グループホーム たのしい家木川東（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、地域の行事に参加できる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、往診に来てもらっています。また、入居前に通院していた病院への受診を希望されている方は、家族と受診して頂いています。	契約時に医療連携について説明した上で選択してもらった結果、全員がホームの提携医を主治医としています。月に2回提携医の往診があり、医師より直接家族に報告書を送付しています。以前からのかかりつけの精神科等の専門医へは家族対応で受診し結果報告を受けています。訪問看護も週に1回の来訪があり、医療機関との緊急時の24時間連絡体制も整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護の看護師に来て頂き、健康管理をしてもらっています。処置をしてもらったり、急を要する場合は、看護師より主治医に連絡してもらったりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行かせて頂いた際、状況を確認させて頂いたり、家族や相談員の方と情報の交換をさせて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明はさせて頂いております。現在、その状態にはありませんが、家族・主治医・看護師・職員と共に連携を取り、取り組んでいきたいと思っております。	入居時に看取り指針を用いて、重度化、終末期についてホームでできる対応と、条件が整えば受け入れる体制を整えている事を説明しています。その時期が来れば医師、看護師も交えて再度家族と話し合いを重ねて方向を決めたいと考えており、研修も受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、スタッフルームにフローチャートを掲示しています。リスクを想定し事前に対応策を話合っている。昼夜問わず、急変・事故時には、電話等での対応もしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通して地域との協力体制を築いている。また、地域の防災訓練に、入居者様と共に参加させて頂いています。	年2回、避難訓練を行い、その内1回は消防署の協力を得て、昼間想定で避難経路の確認や初期消火の方法、通報訓練等を行っています。今後は夜間想定での避難訓練を行う予定です。ホームでは水や乾パン等の備蓄も準備しています。地域の防災訓練にも入居者と一緒に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格を尊重し、その人に合った言葉かけや対応に努めています。	入居者を人生の先輩として尊敬する気持ちを持って接しています。話をする時は常に目線を合わせる事を心がけています。不適切な場面が見られた場合は、その都度、職員間で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ目線で声掛けし、本人の意向や思いになるべくそえる様に努め、自己決定して頂ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やはり、職員の都合が優先になってしまうこともありますが、出来る限り本人の希望にそった支援ができる様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装をして頂いている。 特に外出の時は、いつもと違う洋服等着て頂いて頂いています。 中には、ご自身でお化粧をされる方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・盛り付け・テーブル拭き等、その人に合ったお手伝いをして頂いています。 利用者同士話をしながら、楽しそうにされています。	業者より食材が配送されていますが、入居者の希望を聞き、献立作りから買い物、調理まで出来る事を一緒に行っています。家庭菜園で採れた食材を使った献立の時もあり、時には外食したり出前も取り入れ、楽しい食事になるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた形状・形態で提供。 摂取量をチェック・把握し、少ない時には、本人のお好きな物で、確保できる様、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方はご自身で、介助が必要な方は介助させて頂いている。 毎食後行い、就寝前には、義歯の洗浄をしている。		

グループホーム たのしい家木川東（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、お声掛けをし、トイレ誘導をおこなっている。 出来る限り、トイレで排泄をして頂く様にしている。	排泄記録から個々のパターンを把握してトイレ誘導しています。夜間は安眠優先の為にパッド交換を行っていますが、トイレでの排泄を基本としており、立位保持が難しい方でも日中は二人介助でトイレ誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を付けている。 ヨーグルトやヤクルト等を併用して召し上がって頂く。 便秘薬の調整。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそっては出来ていませんが、ゆっくり入浴して頂ける様に、入浴剤を使用したりしています。	週に2回、午前と午後に入浴してもらい、希望によっては回数を増やしています。拒否傾向の方には声かけを工夫して入ってもらっています。入浴中は職員と一对一の会話を楽しみ、入浴剤等や季節に応じて菖蒲湯等で雰囲気を変えています。立位保持が難しい方にも対応できるようにキャリー付きシャワーチェアも完備し二人介助で行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や日中の状態に合わせて、居室やソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを確実に把握は出来ていませんが、変更等あった場合は、薬情にて確認し、服薬後の状態の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつに好きな物を食べて頂いたり、時には、スーパーで食べたい物を選んで頂いている。 レクリエーションや散歩等で、気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか希望には添えませんが、近くのスーパーに買い物と一緒にいたり、ゴミ捨ての際に一緒に外に出たりしている。 外出レクを取り入れ、ご家族様の参加を呼び掛けています。	気候の良い時期には近隣の散歩や買い物で外出していますが、暑い時期には外出は減っています。代替として、庭に椅子を置いて外気に触れる時間を作る等気分転換が図れるようにしています。季節行事として花見に行ったり、時には車で遠出しています。	

グループホーム たのしい家木川東（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理されている方は、ほとんどいません。 事務所で預かりし、必要に応じて金庫より出しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとおっしゃる方には、掛けて頂いたり、掛けさせて頂いたりしていますが、希望される方は少ないです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、手作りのカレンダーを飾っている。 季節の花などを飾り、心地よい空間作りを心掛けている。 トイレは臭いに気を付け、消臭剤を使用している。	リビングからは家庭菜園が見渡せ、食材や花等から季節を感じる事ができます。ホーム内は毎日清掃して清潔に保たれており、季節の飾り付けが施され、入居者の作品を飾っています。入居者の状態に応じて椅子の配置を換えたり、ソファークーナーを作ったのんびり過ごす場所を確保しています。また、日差しや空調、温度にも気を配った居心地良い空間作りがなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ置きそこでくつろがれたり、食席にて気の合った方とお話しされたりしている。 が、時には、希望に添えないこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを置いたり、ご自身がレクで作ったものを、飾って頂いたりしている。	クローゼットとエアコンは備え付けですが、その他は入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうように話しており、自宅から家具や大切な人の写真、家族の手作りの品等を持ち込まれています。個々の生活スタイルに応じて、畳を敷いて布団で休むことも出来ます。表札には入居者の写真を貼って自室をわかりやすくしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど解る様に目印などを付けている。また、椅子に滑り止めを付けたり、安全に歩行して頂ける様、声掛けをしている。		